

ヤナギ類さし木法について

問 治山現場にヤナギの埋枝工を行いたいと思いますが、いつ、どのように植えたらよいかなど植栽上の留意点について教えて下さい。
(宗谷支庁 A 生)

答 ヤナギの埋枝工は、容易に活着し、生長も早いことから、最も一般的な治山工法です。安定した活着を見るためには、以下のことについて留意する必要があると思います。

1) どんな種類がよいか……ひとことにヤナギといっても、たくさんの種類があります。最もふつうに見られるのは、葉の細長いナガバヤナギ、エゾノキヌヤナギ、エゾノカワヤナギで、これらは治山現場でよく使われており、非常に活着率がよく、80～90%は活着します。一方、活着の悪いものにバッコヤナギ、オオバヤナギ、ケショウヤナギなどがありますが、分布が特殊であり多くありません。最も簡単なさし穂の見分け方としては、できるだけ葉の細長いものを選ぶといったことが無難なようです。

2) どのように植えるか……植栽法は、20～30cm くらいの伸長方向を上にして、斜めに植える、いわゆる斜めざしが一般的なようです。しかし、他の方法、図-1に示すように、例えば枝の伸長方向を逆にして植えるとか、真直に立てて植えてもあまり活着率は変わりません。しかし、さし木に使う穂木には、根に近かった部分に根が発生し、その反対側に芽が発生するという、極性とよばれる性質があって、そのため、さし穂の上下を逆にすると、活着後の伸びに影響するといわれています。また、最も大事なことは埋める深さで、地上部に露出し過ぎたり、逆に深く埋め過ぎる(30cm以上)と、活着率が悪くなります。大体10cm前後が適当と見られ、頭がかくれる程度に斜めに植えるのが合理的でしょう。

3) いつ植えるか……現場では、工事の進行状況により、夏とか秋に植えることが多いようですが、図-2に示すように、葉の開く夏期はあまり活着がよくありません。また、ヤナギの枝は、乾燥に非常に弱く、夏、日光にさらした場合、2週間程度で発芽力はなくなります。よく工事現場で、山積された枝が褐色になっているのを見かけますが、これではあまり活着は期待できません。枝を採取してから植栽まで時間がある場合、乾燥しないように水をかけ、むしろくるむなどの措置が必要でしょう。いずれにしても、植栽時期は、葉の落ちた後か、葉の伸びる前に行うのが最も望ましいようです。
(防災科 柳井清治)

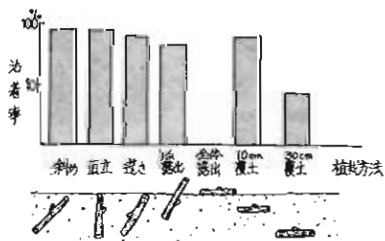


図-1 植栽方法別活着率 (ナガバヤナギ 秋植え)

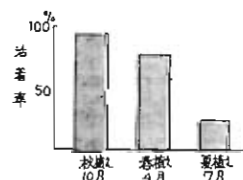


図-2 植栽時期別活着率 (ナガバヤナギ、斜めざし)